

大切な仲間たちと過ごした最後の夏

「ゲームセット」

わずか1点差で、僕のチームの敗退が決まりました。

でも大切な仲間と過ごせた最後の夏に悔いはありません。

僕は甲子園出場を目指す高校球児でした。いつものように練習していた日、やけに呼吸が激しくなっていることに気付きました。精密検査の結果、告げられたのが白血病でした。すぐに長期の入院生活が始まり、抗がん剤の影響で筋力や体重がみるみる激減。野球のことや進路のこと…、何も考えられずただ窓から外を眺める日もありました。

教室のカメラを通して病室で授業を受けますが、治療が辛いときは勉強がままならないことも。でも、休み時間や放課後に野球仲間たちと交流するうちに、病室が学校になったような不思議な感覚でした。ある時、親友に副作用で髪の毛が抜ける話をすると、後日仲間が揃って五厘刈りになっていたのです。驚きとともに、皆の優しさに胸がいっぱいになりました。

「皆ともう一度野球をしたい、皆と一緒に卒業したい」

僕の心にそんな想いが芽生え始めたのもこの時。僕が逆境を乗り越え、治療や勉強に励めたのは、仲間のおかげです。

高3の春に退院し、最後の試合は、マウンドに立つことは叶わなかったものの、記録員としてベンチから仲間を応援。最後まで野球選手としての役割を果たせたことに感謝しています。

現在は、救急救命士という新たな夢をもち、大学で勉強しています。

最後に僕から皆さんへ。不安が大きくなることもあるかもしれませんが、でもネガティブに捉えすぎず絶対に大丈夫と、強く思い続ける心を大切にしてほしいと思います。